

国際ロータリー第2620地区
静岡第5グループ



POWER HAMAMATSU
ROTARY CLUB
JAPAN

週報 パワー浜松ロータリークラブ

親睦と奉仕の扉へ

RI 会長 ホルガー・クナーク/第 2620 地区ガバナー 志田洪顯 /会長 中野敬司 /幹事 村田誠
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立: 2002 年 10 月 22 日 認証伝達式: 2003 年 4 月 29 日 スポンサークラブ: 浜松中 R C



Rotary

第850回例会4月27日(火)AM7:30~8:30

- 会場: オークラクトシティホテル浜松 3 階 チェルシーの間
- 司会: 廣瀬隼人 鈴木孝尚
- 点鐘: 中野敬司 ■週報: 寺田洋平
- ロータリーソング: 「希望のエネルギー」 (※音楽のみ)
- ゲスト: 卓話者 小川雅子様
米山記念奨学生 陳俊達さん

出席報告/スマイル報告

会員数 76 名 (内出席免除会員 1 名)
出席数 58 名 出席率 77.33%

スマイル 7 件

会長挨拶

中野会長



おはようございます。先週は新入会員のオリエンテーション、地区補助金事業、オンラインによる地区協議会と、盛りだくさんの 3 日間でした。連続で参加された方もいらっしゃると思います。お疲れ様でした。

さて、土曜日に実施された「こども「未来」プロジェクト」は財団プログラム部会に担当して頂いた今年の地区補助金事業でした。児童養護施設の子供たちと一緒にスナッグゴルフをして、屋外でするゴルフのおもしろさを感じつつ、楽しい時を過ごしてもらいたいと、昨年の 2 月ごろから計画し始めました。地区補助金ハンドブックに、多数の会員が意欲的に取り組み参加する場合が多く成功している、とありました。今回の事業には、米山奨学生の陳君をはじめとして、33 名の会員が参加しました。そして、それぞれの役割を笑顔で勤めて下さいました。帰りの車中で、和光寮の子供たちの気持ちとか、会員の皆さんはどのような感想をもったのかなあ…などと思いながら帰宅しました。地区補助金事業として、私は大成功だと思いました。

ただ、12 年振りにゴルフをした事と、曇り空ではありませんでしたが屋外で日に当たったせいか、閉会式の頃には私はグロッキー状態。帰宅後のビールでバタンキューでした。皆様も本当にお疲れ様でした。

さて、今朝の卓話をしていただく小川雅子様は、後ほどご紹介があると思いますが、ユーモラスな名前の

文学新人賞の大賞を受賞しております。事前に購入し読ませていただいたので今朝のお話を楽しみにしておりました。それではよろしくお願いします。

幹事報告

村田幹事



- ① 例会終了後にメイフェアの間にて 4 月度の理事会を行います。
- ② 今回受付にて来月 15 日 (土) に前年度からやっている花のリレープロジェクトの管理ということで気賀駅の周りの草を刈る計画をしています。詳細は後日連絡致します。
- ③ 私事ですが昨年度から始まっている RLI の講習を修了したでバッジを頂けることになりました。

委員会報告

財団プログラム委員会 松本由紀彦さん



先週の 24 日、地区の補助金を使った事業こども「未来」プロジェクトのスナッグゴルフを行いました。感染予防のため規模を縮小して行いましたが、思ったより盛大にできました。はじめてやることでまだ改良の余地もありますし、また来年は充実した会ができればと反省点も残りました。今回ご協力いただいた方々、有難うございました。

地区委員会 小澤邦比呂さん



地区研修協議会が 25 日(日) 甲府で開催され、プログラム委員の委員長として出席しました。従来とは様変わりしてオンラインで開催されました。ロータリーは一人一人が集まって顔を見て総会や協議会をするのが一番いい状況です。コロナ禍ということで色んなことができていません。しかし続けなければいけないというロータリー活動に警鐘が出ています。一つだけお願いします。オンラインの場合は誰でも参加できるので、この機会にロータリーを感じて頂きたいと思います。

議 事

小川雅子様 卓話

「児童文学 私の歩み
『ライラックのワンピース』の出版」

担当 ロータリー情報委員会



■米山梅吉とのかかわり

ロータリークラブといえば、米山梅吉の名前を思い出します。

私ども大日本報徳社の顧問で、『二宮金次郎の一生』を書かれた作家の三戸岡道夫先生が『米山梅吉の一生』も書かれているのですが、その中に、こんな言葉があります。

明治から昭和にかけて、静岡県には三人の二宮尊徳がいた。

西部の金原明善、中部の岡田良一郎、そして、東部の米山梅吉。

大日本報徳社は、二宮尊徳の一番弟子の一人である岡田良一郎がその礎を築きましたし、ここ浜松は、金原明善ですし、ロータリークラブといえば、米山梅吉です。

ですから今日、私が掛川の大日本報徳社から浜松のロータリークラブにお招きいただいたのは、そんなご縁もあるなあと感じております。

今日は、「私の歩み、本の出版」というお題を頂きましたので、お話をさせていただきます。

昨年 10 月に、私にとっては初めての本となる『ライラックのワンピース』が出版されました。この本は、サッカー少年であり、裁縫少年である小学校 6 年生の男の子が主人公の成長物語です。ジャンルとしては、児童文学になります。

ポプラ社の主催する「ポプラズッコケ文学新人賞」の第 9 回大賞受賞作として出版されました。

■子どものころ

私は、掛川の町中にある小さなおもちゃ屋の、三人娘のまん中として生まれ、育ちました。

姉と妹はわりと外向的な性格で、表で遊んだり、お店の手伝いなんかもしていたのですが、私はどちらかといえば内向的で、一人で地味～～に、本ばかり読んでいたような子どもでした。そうすると、しぜんな流れで「私もいつかお話を つくる人になりたいな」と思うようになっていました。でもそれは、あくまで、夢見るように漠然と思っていただけで、「作家になりたい」という明確な意思を持っていたわけではありませんでした。家が、年中無休のおもちゃ屋ですから、家族旅行とかにも行ったことはありませんでしたし、自分で行動できる範囲も、学区内と、せまい範囲でした。

でも、本の中では、どこにでも行くことができました。世界にはいろんな国があって、美しいものや、不思議なもの、びっくりするようなことがあるのだということも、本から知ることができました。

そして、子ども心に、人っているいろんなことを考えて不思議だなあ、とか、自分とは全く考え方の違う人がいるんだなあ、とか、でも、全然知らない国の人なのに、「この気持ち、わかるな」とか、大好きな登場人物を友だちのように思ったり、お話の続きを想像したりしていました。

■作家を志す

本気で「作家になりたい」と思ったのは、大人になってからでした。

私は銀行に 10 年ほど勤めて、子どもが生まれて一時期、専業主婦になったのですが、そのときでした。子

どもの手が離れたとき、ただお母さんだけでない、自分が自分でいられるように、今から何かをしなくちゃ、と思いました。

そして、小さいころあこがれていた「いつかお話を書く人になりたい」という夢のようなことを、そのとき「がんばってみよう」と明確な目標にしたのです。



5 年ほどたったとき、学研の児童文学賞を受賞して、雑誌に掲載されました。学研の「科学と学習」という雑誌でした。アンソロジーも 3 冊出版しました。でも、それらはすべて短編の賞で、長編は最終選考どころか、二次選考にも残らない、という状況でした。

やっぱりだめなのかなーと、思いかけていたころ、知り合いから「文章を書いているなら、書く仕事を手伝ってくれないか」と頼まれ、取材して記事をまとめる、という仕事をするようになりました。

そのとき、ご縁があって、掛川ロータリークラブの例会の講演録をまとめる、という仕事もさせていただきました。

そんなふうには、10 年くらいフリーで仕事をしていたのですが、6 年ほど前に、当時の大日本報徳社の専務理事から、「経理と冊子の編集をしてくれる人を探しているんだけど、来てくれないか」と声をかけて頂きました。当時の社長である榛村純一さん（掛川市長を 7 期務めた方）や、現在の社長の鷲山恭彦社長（元東京学芸大学学長）のそばで仕事ができるのは、とても幸せなことでした。

3 年前に、長編の原稿がポプラ社の児童文学賞の最終候補に残ったと、連絡がありました。そのときは、一か月後に落選の連絡があったのですが、すでに、前作を送り出してから、新たな作品も書いていましたから、「次こそ」という気持ちでした。そして、翌年、応募して、200 編の中から大賞に選ばれることができました。

■ 児童文学の魅力

受賞して、まわりの方から一番言われたのは、「28 年も、まあ、よくあきらめずに夢を追い続けられたね」ということでした。自分なりに「どうしてだろう」と振り返って、考えてみました。それは、きっと私が児童文学を読み続けてきたからじゃないかと、最近思うようになりました。

児童文学はこれから生きる子どもたちに向けて書かれたものです。

「人生というのは、生きるに値するものだよ」「世界は広くて、不思議なものや美しいものがいっぱいある」

「頑張っていれば、なんとか道はひらけるよ」「大人になるのは、なかなかいいものだよ」「だから、安心して大きくなっていいんだよ。生きていていいんだよ」と伝えるものだと思います。ある意味、人生を肯定し、生きることの王道を伝えるものだとは私は思っています。

そう考えると、ずっと児童文学を読み続けていたことが、私の自己肯定感を高め、何度落選しても「次があるさ」「いつか道はひらける」という、あきらめない心を育ててくれたように思います。

今回、本の出版を経験して、本というのがこんなにも丁寧に作られているのかと、びっくりしたことが何度もありました。

布をモチーフにしたカバーの紙や、カバーをめくるときらきらしたレースの模様があることなど、本を手にとった瞬間から、物語の世界が始まっているような本づくりがされているんです。

これは電子書籍ではできないことです。

本というのは、【作者】だけで作るものではなく、【編集者】や【校閲の方】、それから【絵を描いてくれるイラストレーターさん】や【デザイナー】など、みんなの力でできるものだ実感しました。

今回、皆様のご厚意で、児童養護施設の子どもさんたちに本を寄付して下さったと聞いています。子どもたちの笑顔の写真をお届けされた会員さんから送っていただき、「この子たちが読んでくれるんだな」「読んで、あたたかな気持ちになってくれたら嬉しいな」と心から思いました。本は、本は自分の狭い世界に風穴を開けてくれます。

これからも、本を手にとってくれた子どもたちが、本を抱きしめてくれるような、宝物にしてくれるような、そんな物語を書き続けていきたいと思っています。

今日は、本当に貴重なお時間を、ありがとうございました。ご清聴ありがとうございました。

スマイル報告

① 中野会長・村田幹事

小川様 本日は朝早くからお越しいただき素晴らしいお話をお聞かせいただき有難うございます。今後益々のご活躍ご健勝をお祈り申し上げます。

② 鈴木利和さん・堀内善弘さん

本日卓話の小川様、報徳社の冊子を会員に下さり又素敵な卓話を感謝します。子供の心を大切に私たちも清く美しく生きて参ります。

③ 中野会長・村田幹事

土曜日のスナッグゴルフ、天気も良く怪我もなく和光寮の子供達も先生方も会員の皆さんも楽しんで頂けたと思います。準備してくれた財団プログラム部会の皆さん、当日各コースでフォローして下さった会員の皆さん本当に有難うございました。

④ 鈴木孝尚さん

小川様、本日は素晴らしいお話を頂き有難うございました。諦めずに継続する大切さを実感しました。私もたわいもない夢の実現に向かって諦めずに楽しく頑張ります。

⑤ 近藤雅彦さん

先日のスナッグゴルフ体験では浜松ビーチサイドゴルフ倶楽部をご利用いただきまして有難うございました。当ゴルフ場はゴルフをやる方はもちろん普段あまりやらない方でもご家族で楽しむことができます。コロナ禍で比較的安全なレクリエーションとして認知されておりますので機会があればご利用下さい。ご利用の際は私に一言声をかけていただければ割引させていただきますので是非宜しくお願いします。

⑥ 小澤邦比呂さん

4月21日に浜松市社会福祉協議会にペットボトルのキャップ 108,000 個、ブルタブ 57kg 他を寄付させて頂きました。エコキャップ 800 個で 1 人分のポリオワクチンになります。おかげさまで 12 年間で百万個を集めることができました。継続は力なりです。これまで中野会長、青山会員、田淵会員、野田会員他多くのメンバーの方々に感謝です。ありがとうございました。

⑦ 事務局 高柳さん

スナッグゴルフ体験レッスンの活動に行っていました。当日、和光寮の生徒さんに欠員が出て思いがけずプレイヤーとして指名され参加する機会を頂きました。本来であれば会員さんがプレイするところを事務局がしゃしゃり出た形となってしまいましたがとても楽しかったです。皆様の温かい支えのおかげで良い経験をさせて頂きました。有難うございました。